

## FM戦略企画研究部会

# 都市・地域の 持続可能性-活性化と レジリエンス

都市・地域の持続可能性を検討するため、地域経済を中心とした地域活性化と近年頻発する自然災害を踏まえ、地域のレジリエンスの2視点からまちづくりの研究を継続した。概要は次のとおり。

## ①「統合的価値創造」を目指すSDGs未来都市・自治体

### SDGsモデル事業の事例：

- ・SDGs未来都市（真庭市・下川町）：両都市とも森林面積が8～9割を占め、森林資源を活用して「経済・社会・環境」における統合的価値創出によるまちづくりへの取り組み。（3年計画の1年目）
- ・森林バイオマスのエネルギー利用は、真庭市が発電、下川町が熱利用で好調。
- ・人口・観光客・環境学習参加者等の増加目標など人的指標は両都市とも不調。

## ②稼げるまちづくり「チャレンジまちづくり100」(内閣府)から観光促進による地域価値向上の取組事例：

- ・街並み・建物など資源活用による観光促進まちづくり事例（丹波篠山市・矢掛町）。
- ・空き家の古民家等を改修の上、街まるごとホテルとして、町・地域を巻き込んだ取り組み＝アルベルゴ・ディフーズタウン（矢掛町 矢掛屋 INN AND SUITES）。
- ・歴史的資源（歴史地区-城下町、宿場町、門前町、里山集落や古建築）を活用した観光促進（丹波篠山市 NIPPONIA）と地域再生（内発型産業創出、若者回帰）。

注）アルベルゴ・ディフーズ：北イタリア発祥の空き家を活用した「まちぐるみ」で宿泊客をもてなす「分散型ホテル」、1980年代に出現。

FM戦略企画研究部会 部会長

**高藤 真澄** たかふじますみ

株式会社NTTファシリティーズFMアシスト  
安全推進担当 技師長  
認定ファシリティマネジャー

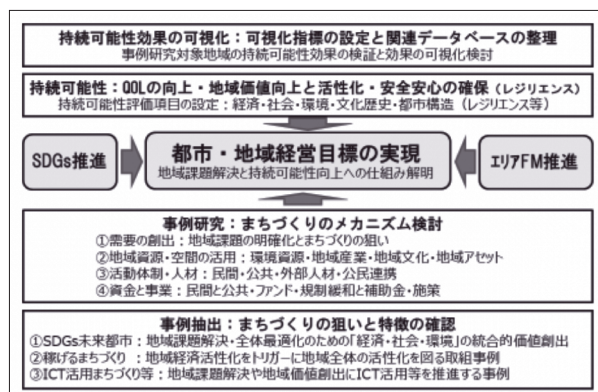


## ③最近の豪雨災害に対するレジリエンス(しなやかな対応力)確保に向けたまちづくりの検討：

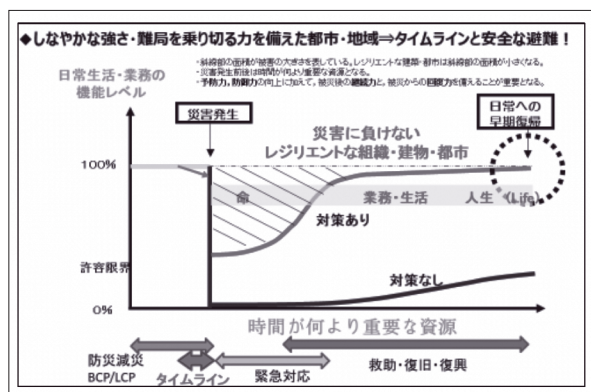
- ・レジリエンスには、ハード面とソフト面の事前対策、緊急対策、復旧・復興対策が求められるが、人命保護には、「安全な避難の実現」が必要不可欠。
- ・ハザードマップの整備活用、安全な避難のための事前防災行動計画(タイムライン)の策定と実施体制の確立、安全な避難所、意識改善と住民合意が当面の課題。
- ・「水災害対策とまちづくりの連携のあり方」検討を国交省内で開始（2020年1月）。

- ④今後の研究予定：都市・地域の持続可能性のためには、まちづくりの効果が地域全体におよぶこと、総合的な地域価値の向上を図ることが必要である。故にまちづくりにおける持続可能性の効果評価のためには、SDGsに基づく構成5項目（部会案 - 経済・社会・環境・文化・都市環境）に関係した評価項目と指標を選定し事例比較の可視化を検討したい。参考としては、「新国富指標と地方創生」（馬奈木俊介氏ほか）やSDGsグローバルインディケータのローカライズ事例（「SDGs導入のためのガイドライン（IBEC）」）などを活用予定。

【例】環境/再生エネルギー利用率（自給率）、社会/人口動態 社会的増減、交流人口推移、経済/RESAS 経済循環率、住民所得推移、文化/イベント回数、都市環境/レジリエンス⇒立地リスクと対応策（ハザードマップとタイムラインほか）、公園・景観&歴史地区状況など。◀



図表1 FM戦略企画研究部会の研究概要



図表2 都市・地域のレジリエンス